

公式 Web サイト



<https://2025.keikankaika.jp/>

公式 SNS



@keikankaika





土木デザイン設計競技

景観開花。

2025 season

公開最終審査会 & トークセッション 公式パンフレット

2025.12.6 (土)

東北大学青葉山新キャンパス
災害科学国際研究所



アーカイブ配信

「景観開花。2025」公式 YouTube

公開最終審査会・トークセッション

プログラム

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 13:00～13:15 | 開会式 |
| 13:15～15:10 | プレゼンテーション・質疑 |
| 15:15～15:45 | 公開審査 |
| 16:05～16:20 | 授賞式（特別協賛企業賞の授賞含む） |
| 16:30～17:30 | 審査委員によるトークセッション |
| | 時間・空間・転換のデザイン |
| | —コンバージョンで開花する 土木とまち の未来— |
| 17:30～ | 閉会式・写真撮影 |
| 19:00～21:00 | 懇親会 |

懇親会会場

Di VERDE S-PAL 仙台店（JR 仙台駅直結、S-PAL 仙台本館 地下 1 階）

目次

企画要旨	2
『景観開花。2025』について	3
審査委員紹介・メッセージ	6
受賞作品紹介	9
入賞	10
特別協賛企業賞	19
応募作品一覧	25

『景観開花。2025』企画要旨

『景観開花。』は、土木デザインに関心をもつ若者にその力を試す機会を提供するとともに、土木デザインの可能性を広く社会に示すことを目的とした設計競技イベントである。

戦後の成長期における日本の土木事業では、早急な社会基盤整備の要求を受けて機能性と効率性が優先され、全国各地に画一的な土木施設を生んだ。しかし、整備の進展・拡充に伴って社会の関心や要請は量から質へと転換し、その場所が持つ意味や役割に即し、風景と調和した土木デザインの重要性が認識されるようになった。

こうした背景のもと 2004 年に誕生した『景観開花。』は、その時々の世相や土木における理想を反映したテーマを毎年設定し、「未来へつなぐ新時代の土木デザイン」や「人々が交わる『まち』とそれを支える土木構造物のあり方」などについての提案を募ってきた。一年間の中斷を挟み、2020 年にリニューアルした後は、激変する社会情勢に対応したこれからの土木デザインのあり方について、ハード・ソフトの両面から提案を求めた。

21 回目の開催となる 2025 年の『景観開花。』では、これまでの方針を踏まえつつも、近代土木の歩んできた歴史や時間軸に焦点を当てたテーマを設定する。

日本社会は今後、少子高齢化のさらなる進行や AI の台頭などを背景に、大きな変化を迎えることが予想される。こうした未来志向の変化が加速する一方で、日本の近代土木には 150 年を超える歴史の積み重ねがすでに存在していることも忘れてはならない。

奇しくも 2025 年は、21 世紀最初の四半世紀が終わる節目の年でもある。この節目を好機ととらえ、近代土木の歴史的蓄積と将来的な社会変革を見据えるとともに、現在直面している社会課題に対応する土木デザインのあり方を問い合わせたい。

『景観開花。2025』実行委員会

設計競技『景観開花。2025』について

選考の流れ

エントリー

2025. 8. 1 Web サイト・設計テーマ公開

エントリー開始

10.26 エントリー締切

10.27 作品提出締切

エントリー数 **33** 団体 提出作品数 **27** 作品

一次審査

2025.11.10 一次審査会（オンライン開催，非公開）

審査委員による全作品への講評

審査委員によるディスカッション

特別協賛企業による特別賞選出

11.11 一次審査 結果公開

入賞（一次審査通過）**5** 作品 特別協賛企業賞 **5** 作品

最終審査

2025.12. 6 最終審査会（対面開催，公開 + ライブ配信）

一次審査通過作品のプレゼンテーション

審査委員による質疑・公開ディスカッション

表彰式（入賞・特別賞）

審査委員によるトークセッション

最優秀賞 **1** 作品 優秀賞 **1** 作品 佳作 **3** 作品

最終審査における審査方法

- ・ プレゼンは 発表 8 分・質疑 10 分 とする。公平を期すため、時間は厳守すること。
- ・ 発表は、スライドおよび模型を用いて行う。
- ・ 発表順は、くじによって決定する。

設計競技「景観開花。2025」について

■ 景観開花。2025 設計テーマ

CONVERSION Doboku －時間、空間、転換。－

2025 年度の『景観開花。』では、土木施設・構造物の用途転用、すなわち「コンバージョン土木」による、都市や地域との関係性の向上や再構築をめざす空間デザインの提案をテーマとする。

近代土木の歴史に思いを巡らせると、社会基盤としての土木施設がしだいに人々の記憶や風景の一部となり、社会の成熟とともに異なる意味や価値を帯び始めたことに気付かされる。土木施設は、機能の実装にとどまらない文化的資産としての意義を有するようになってきたのだ。

土木設計家・篠原修は自著の中で、土木デザインとは「文明を大地の上に造形化して美しい風景を形成し、文化遺産として後世に残す行為」であると位置づける。土木空間は、文明が生んだ技術や制度、価値觀とともに変化し続けながらも、そこに蓄積された時間の層を内包し、風景として私たちの前に立ち現れる。その意味で、土木施設がもつ都市景観上の役割や市民の誇り・愛着といったレガシーは、今後の地域社会における重要な文化的価値となるであろう。

こうした観点に立つと、近年増えつつある老朽化したインフラや、時代の変化とともにその役目を終えた施設・構造物を再利用・再生利用することは、空間の継承と再生の両側面から大きな意義をもつと言える。

そこで、本年度の『景観開花。』では「コンバージョン (conversion)」という考えに着目する。コンバージョンとは一般に「転換」を意味し、特に建築の分野では、当初の構造を活かしつつ内部の用途を変更することで、全く異なる機能を持たせる手法として定着している。近年では、空き家がカフェへ、廃校が宿泊施設へ、工場が市役所へ生まれ変わるといった事例が各地で見られる。

一方、土木の領域におけるコンバージョンの実践は普及するまでには至っておらず、裏を返せば多くの可能性を秘めている。既存ストックを活用することは、都市の持続性や環境負荷低減の観点からも重要なアプローチであり、今後の土木デザインにおける重要なテーマの一つと言えよう。

構造的に高度な技術が用いられてきた土木施設や構造物が、役割を終えたあとにどのようなかたちで都市や地域と関係を結び直していくか——そのデザインには、単なる用途転用にとどまらない創造的な提案が求められる。

土木がつくり出した時間や文化の広がりが、新たな役割を伴ってまちと繋がる「コンバージョン土木」のデザインを期待している。

審査委員紹介・メッセージ



西村 浩 | NISHIMURA, Hiroshi

審査委員長

建築家／クリエイティブディレクター
株式会社 ワークヴィジョンズ 代表取締役
株式会社 まちなか不動産 代表取締役
株式会社 リノベリング アドバイザー

皆さんが生きるこれからの時代は、社会や環境、技術の変化が加速度的に進み、私たちの暮らす時間や空間の価値も常に揺れ動いています。

今年のテーマは、単なる建設や更新ではなく、既存の資源や場所を新たな意味に変える視点を問いかけています。土木は本来、人々の生活基盤を形づくる仕事ですが、その可能性は物理的な構造にとどまりません。

あなた自身が当事者として、自らの未来を見据え、そこに必要な時間や空間をどう編み替えるのか。固定観念にとらわれず、若い感性と柔らかな発想で、既存の枠を超える提案を期待します。

この場は挑戦の場であり、未来の実験場でもあります。皆さんの思い切った「転換」の物語に出会えることを、心から楽しみにしています。



崎谷 浩一郎 | SAKITANI, Koichiro

株式会社 EAU 代表取締役

ある土木構造物がその役割を変えるとき、
求められる機能や性能の外側に何を見出すことができるだろう。
空間や地域を取り巻く「変化」に目を凝らし、
対象を捉え、見立てる力を楽しみにしています。



西村 祐人 | NISHIMURA, Yuto

修復建築家

株式会社デザイン・フォー・ヘリテージ (D4H) 代表取締役

合同会社 石と木 業務執行社員

一般社団法人 ISHIZUE 業務執行理事

既存建造物を活かす取り組みには、文化的価値を保存し未来へと手渡すという理念的な動機と、既存ストックを活かす=すなわち「まだ使える」という素朴で実利的な動機が存在します。

本来、その間にはグラデーションで多様な選択肢が存在するはずですが、現実には、それらの取り組みは理念と実利の二極に偏り、文化遺産の枠組みの受容性の低さも相まって、私たちの暮らしの風景に大きな時間的断絶を生んでいます。

再生や用途転換の事例がいまだ少ない土木の領域においては、内部空間の有無、機能や公共性への態度といった建築との差異に目を向けることも大切ですが、近代国家が土木構造物に託してきた価値観そのものに問い合わせをしておなじ挑戦があってもよいかもしれません。

既成の価値を転換（コンバージョン）する創造的な提案と出会えることを楽しみにしています。



馬場 正尊 | BABA, Masataka

建築家

東北芸術工科大学教授

オープン・エー代表取締役

リノベーションやコンバージョンの動きが土木の世界にも到来したようだ。建築と違うのは、その巨大さや、存在時間の長さではないだろうか。

人間も自然の一部だとすれば、それがつくった構造物もまた、長い時間の中では自然へと還元されていく。例えば、ダムや堤防は人間が作った地形のようにも見える。ローマの水道橋を見ながら、数千年経った高速道路を妄想することもある。大きなスケールと長い時間の中で変換の姿を追求できるのは土木の特徴なのではないか。

同時に、小さなコンバージョンが土木を変えてゆく風景を目にすると、僕も時に貢献している。高速や鉄道の高架、道路、橋などにヒューマンスケールのデザインが介入を始めている。ここではもはや土木と建築の境界は曖昧になっている。

時間も空間もダイナミックに横断しながら考えることを、このコンペは望んでいるのではないかと思う。みなさんの想像力を見るのが楽しみです。

■ 設計条件

- 土木施設あるいは土木構造物を中心とした、ハードに主眼を置いた提案であること。
- テーマに沿う施設・構造物と都市を対象として選定し、選定理由と合わせて明示すること。
- 対象とする施設・構造物の規模は問わないが、単なる改修ではなく、用途や機能の転換を伴う「コンバージョン」であること。
- 施設・構造物の補修や補強を行うことを前提としてよいが、現在（あるいは建造時）の構造そのものに大きく変更を加えるものであってはならない。
- 原則として現行の法律を遵守すること。逸脱する場合は、その内容および理由、実現のための方策等を合わせて明示すること。

■ 評価の観点

- 対象と提案がテーマに即しているか
- 対象とする施設・構造物と都市の歴史をよく理解しているか
- 持続可能な都市・地域社会に寄与する空間であるか
- 用途転換後の活動や利活用、周辺地域との関係性に関する具体的な提案がなされているか
- 独創性・将来性・現実性に富むものであるか

■ 応募上の注意

- 応募作品は未発表のものに限る。
- エントリーは1人につき、1エントリーに限る。
- 応募作品は1エントリーにつき、1作品に限る。
- 応募作品の著作権は、応募者に帰属する。
- 主催者および実行委員会は、本企画の趣旨の範囲内で、著作権者名を明示したうえで、報告書、記者発表資料、作品集、公式Webサイト等を通じて、応募者氏名、応募作品およびその内容等を公表できるものとする。
- 設計課題に対する質問は受け付けない。規定外の問題は応募者の自由決定とする。

受賞作品紹介

入賞（最終審査対象）

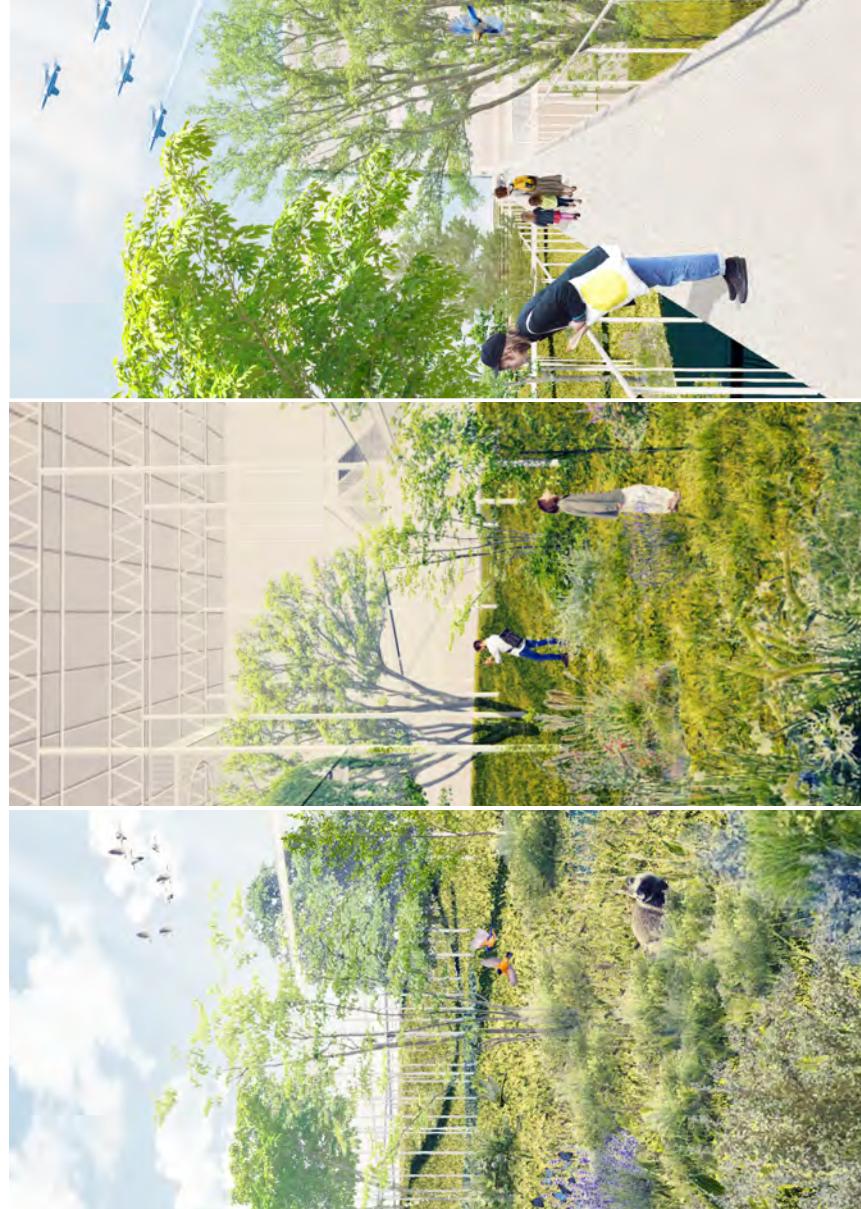
No.10	キオクノカケラ - 野蒜築港に還る風景 -	10
No.15	土木は森である。	12
No.19	灯る堤 -ハレへと転換する防潮堤 -	14
No.23	はし わたし ともりなおし	16
No.32	森は響き、湖底に祈る —ダム建設により沈んだ村を弔い、未来に繋ぐ屋外劇場—	18

特別協賛企業賞

鹿島建設賞・No.16	おとだまり	20
大日本ダイヤコンサルタント賞・No.28	籠で水をすくう - 蛇籠により、廃線跡を平時にも災害時にも活躍する遊水地へ -	21
東京建設コンサルタント賞・No.22	たまり、のぼり、めぐる	22
ドーコン賞・No.28	於福のかまど ～地質と食をおせつかいにつなぐ石灰窯の活用方法～	23
ヨシモトポール / YS ポール賞・No. 8	悠縁を結ぶ回廊 ～開かれた出会いの庭と自然をほどく径～	24

キオクノカケラ－野蒜築港に還る風景－

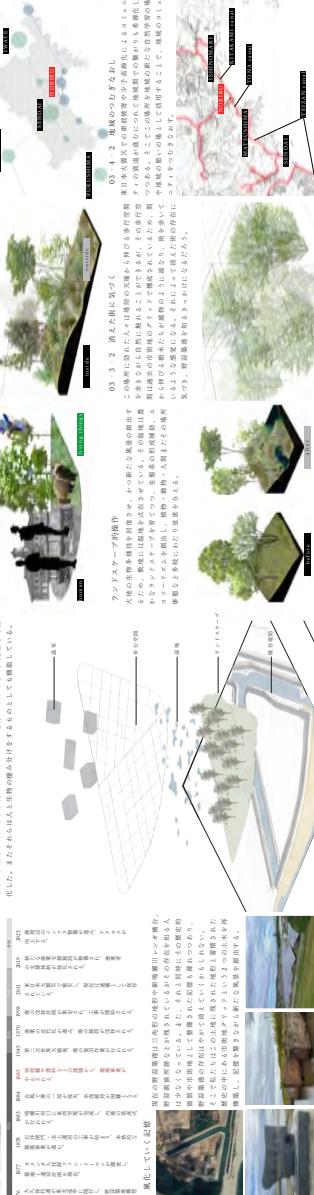
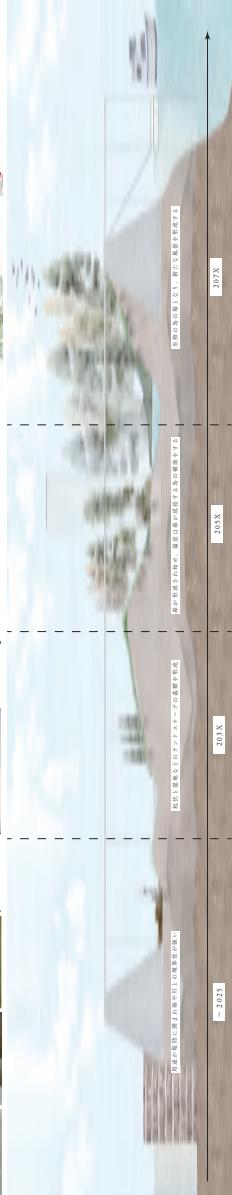
野蒜築港はかつて東洋の貿易を支えた多くの結婚式場でしたが、災害や土砂の崩落などにより先成りする全くその地形や実態などが残されてしまいました。この場所がかつて港として機能した事実を「野蒜築港」として残していく。この場所のへとと繋がれる他の歴史は、語りきっています。本项目は、人の命と自然との共生のための、人の命と自然の癒しを形成することによって新たな癒しを創造した。かつての歴史を読み解く、発掘・発掘するレーマーとして新たに誕生した人工と自然の癒し地帯を再構築しました。それは、人と自然の関係を新たに創り、生き生きとする場として新たな命を送るだろう。

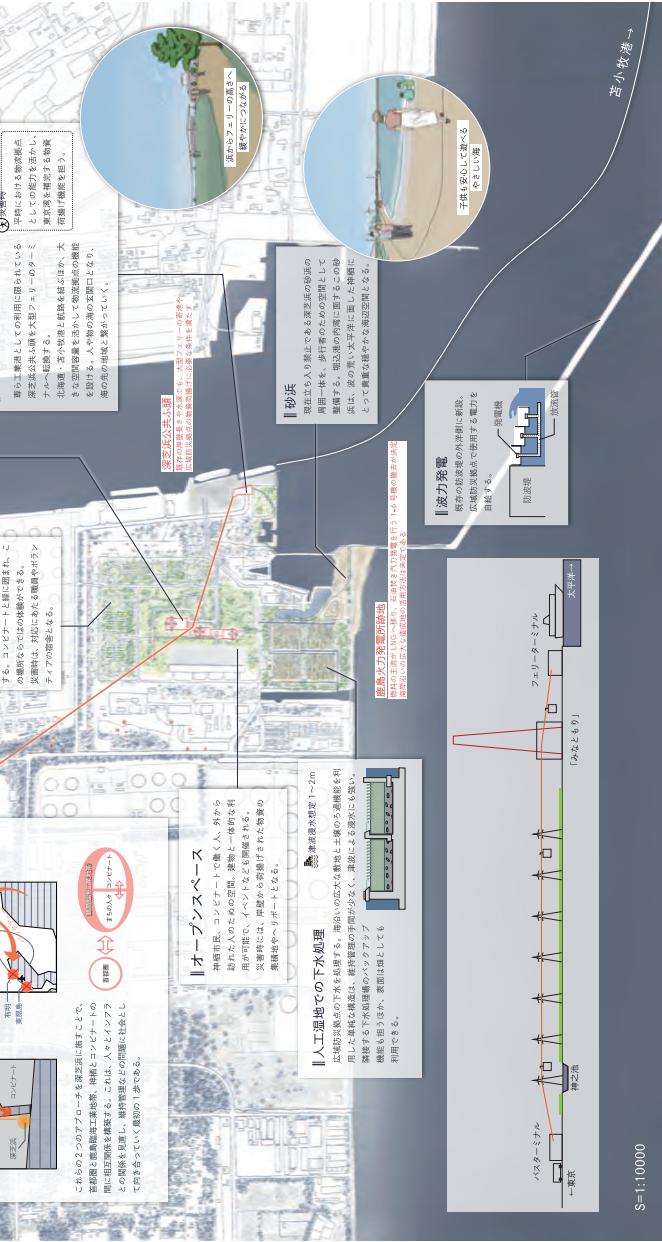


No.10 キオクノカケラ - 野蒜築港に還る風景

（東北工業大學）新野日穂、藤田大輝（東北工業大學太學院）、佐々木優真、
兼平旺青、庄子勇翔、秦海一斗、
（東北工業大學）大庭茂登、高木賢登、
（東北工業大學）

かつて東北の物流拠点として計画された野蒜築港を、未完の遺構として自然へと再生させる計画。





十木は森である

蕃沼耕平、太沼若奎（東京大学大学院）、星川芽生（東京大学）

現代人にとての森ともいえる"コンビナート"と神栖市民、さらには首都圏との相互関係の構築を目指す。神栖市深芝浜で火力発電所を構成していた港湾・備蓄・発電・送電設備の一體的なコンビージョンを行うことで、

灯る堤

-ハレへと転換する防潮堤-



-土木をコンバージョンするにおいて-

土木が1つの機能のために作られたため、社会の変化に対して貢献になり、土木の取り組み、コンバージョンを求める。その土地性・文化を獲得することで様々な社会の変化にも影響されない土木にコンバージョンする

01 愛知県半田市亀崎のまちと海、そして文化



防潮堤

潮干祭り

意味性的転換

土木に祝祭性を作

(高瀬が矢なりれば普段は街と海を分断する土木)

(亀崎に伝わる文化)

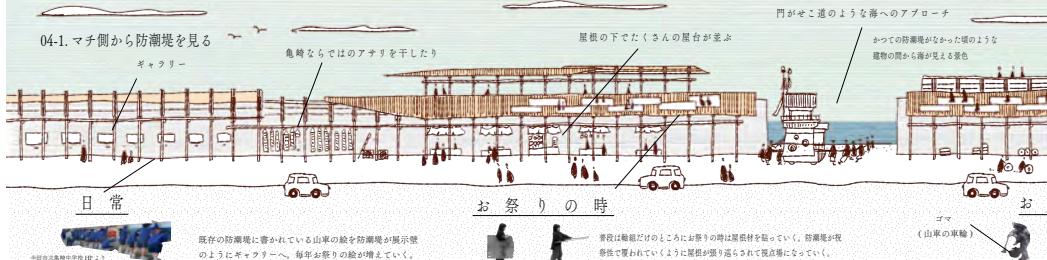
02 海、街を分断する防潮堤を視点場へ転換

02 海、街を分断する防潮堤を視点場へ転換



04 防潮堤が海を願う祭りの場に転換されていく

提案



04-1 マチ側から防潮堤を見る

屋根の下でたくさんの屋台が並ぶ

04-2 日常時の防潮堤を海から見る

普段は輪組だけのところにお祭りの時は屋根材を貼っていく。防潮堤が祝祭性で変わっていくように屋根が張り巡らされて祝祭場になっていく。

04-3. お祭りの日を砂浜から防潮堤を見る

踊り場が祭りの時はステージになる

05 防潮堤を介した日常的な海とマチの新

ここから神前神社が見える

05-1 防潮堤を介した日常的な海とマチの新

日が経つにつれ祝祭場がまたびてくる

05-2 防潮堤を介した日常的な海とマチの新

ゴマに海水を毎日かける

No.19

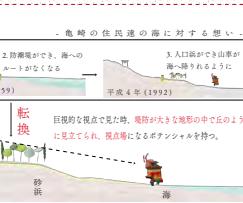
灯る堤 -ハレへと転換する防潮堤-

河田 夏奈，小野 優人，田村 恭子，芳形 芽依，吉川 愛子（名古屋市立大学）

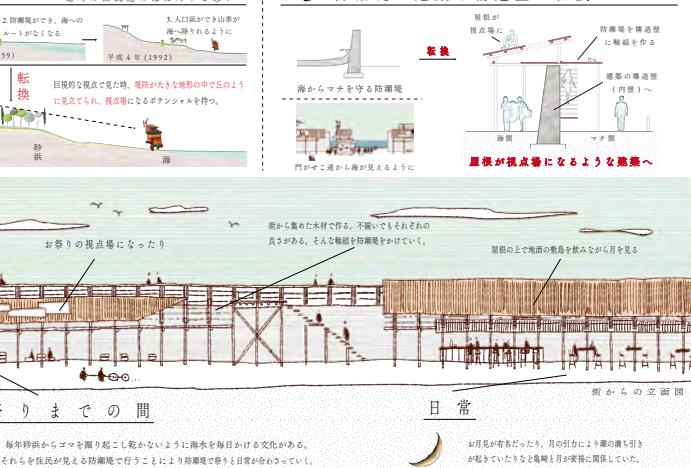
祝祭性を作ることでその土地性・文化を獲得し、様々な社会の変化も受け止める土木にコンバージョンする。
防潮堤が亀崎の文化を引き継ぎながら新たな景色を作っていく。



**海から街を守る防潮堤が
海に対して頑うお祭りの場に転換**

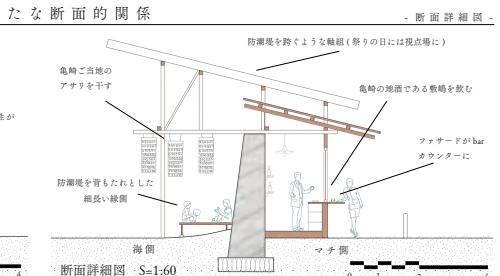


03. 防潮堤が建築の構造壁へ転換 - 設計手法 -



今までの間

たな断面的関係



1つの機能のために作られた土木にそのマチらしさを作ら。

防潮堤が亀崎の文化を引き継ぎながら新たな景色を作っていく

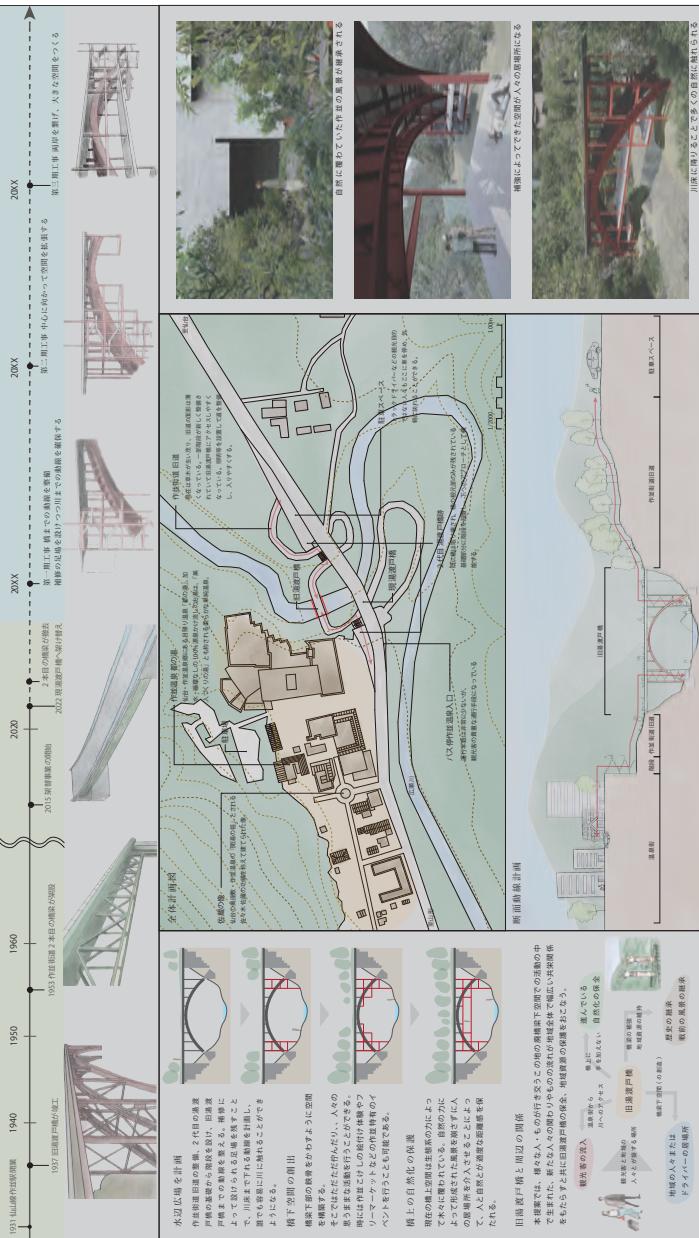
	<p>宮城県仙台市青葉区作並 宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。</p> <p>宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。</p>	<p>自然豊かな丘陵で川が蛇行され、人の居場所になり、川が谷と谷をつなぐ。 提案する作並温泉にて位置する日清温泉にはほかに共同浴場がある。 長い作並の重要なところである。 山の風景と温泉を楽しむことができる。 この、こびり込める作並をまたおもてなしの心で、</p>
	<p>宮城県仙台市青葉区作並 宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。</p> <p>宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。</p>	<p>橋の手引書 橋の手引書を用意するために、橋の手引書を用意していく。 橋の手引書を用意していく。 橋の手引書を用意していく。</p>
	<p>宮城県仙台市青葉区作並 宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。</p> <p>宮城県仙台市青葉区作並は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。この橋は、山から山へと走る山道にかかる橋である。</p>	<p>橋の手引書 橋の手引書を用意していく。 橋の手引書を用意していく。</p>

No.23

はし わたし どもりなおし

高橋 杜真、田中 雄大（東北工業大学大学院）、加藤 光彌、月館 新、森 桜、本田 永輝、岩川 詞音（東北工業大学）

宮城県と山形県を結ぶ作並街道の道路わきに長年使用されず、佇んでいる旧湯渡戸橋。そんな作並の風景の一部になりつつある橋で川床に触れられ、人の居場所になり、自然と共に存する橋を提案する。



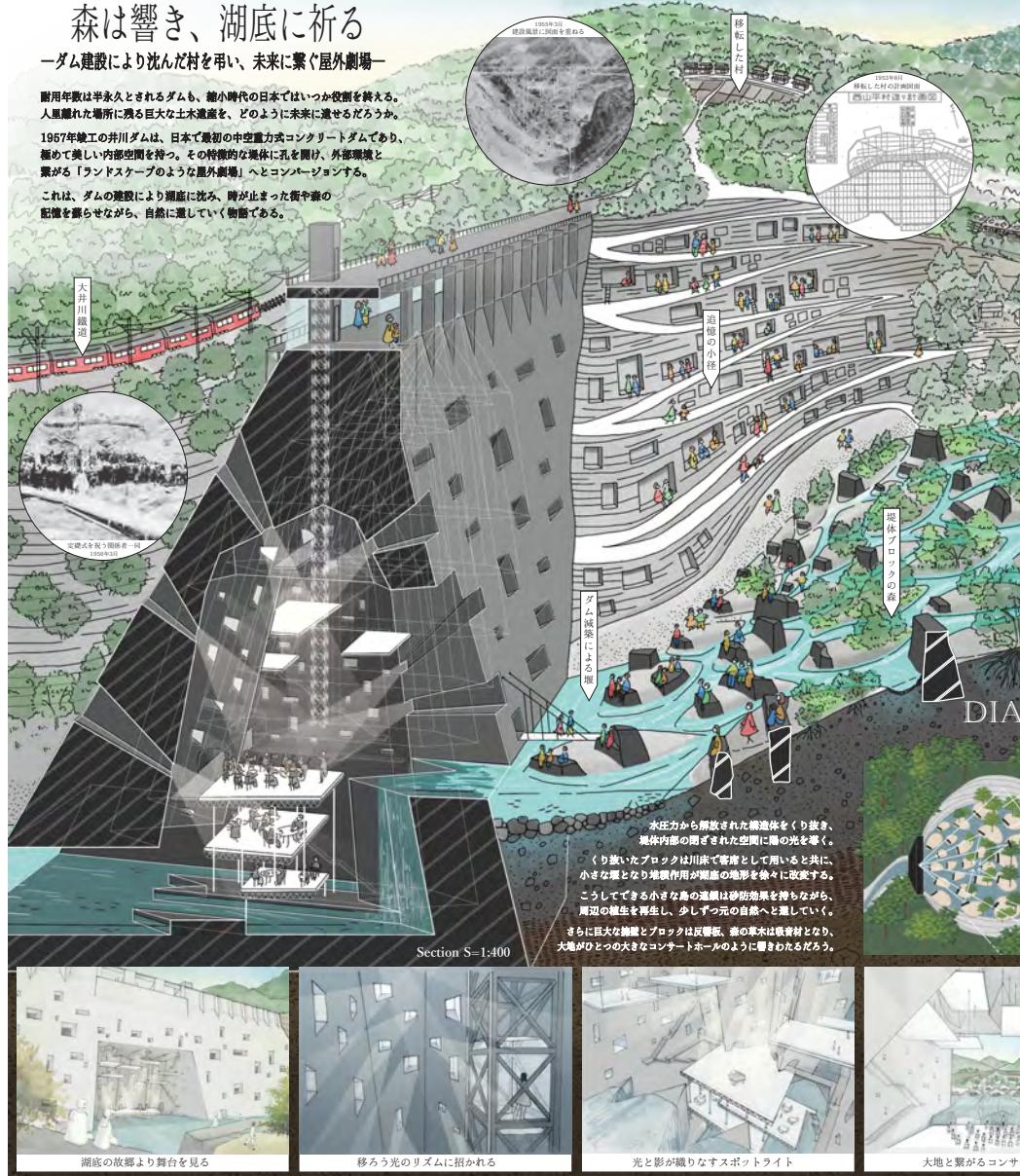
森は響き、湖底に祈る

—ダム建設により沈んだ村を弔い、未来に繋ぐ屋外劇場—

耐用年数は半永久とされるダムも、縮小時代の日本ではいつか役割を終える。人里離れた場所に残る巨大な土木遺産を、どのように未来に還せるだろうか。

1957竣工の井川ダムは、日本で最初の中空重力式コンクリートダムであり、極めて美しい内部空間を持つ。その特徴的な堤体に孔を開け、外部環境と繋がる「ランドスケープのような屋外劇場」へとコンバージョンする。

これは、ダムの建設により湖底に沈み、時が止まった街や森の記憶を蘇らせながら、自然に還していく物語である。

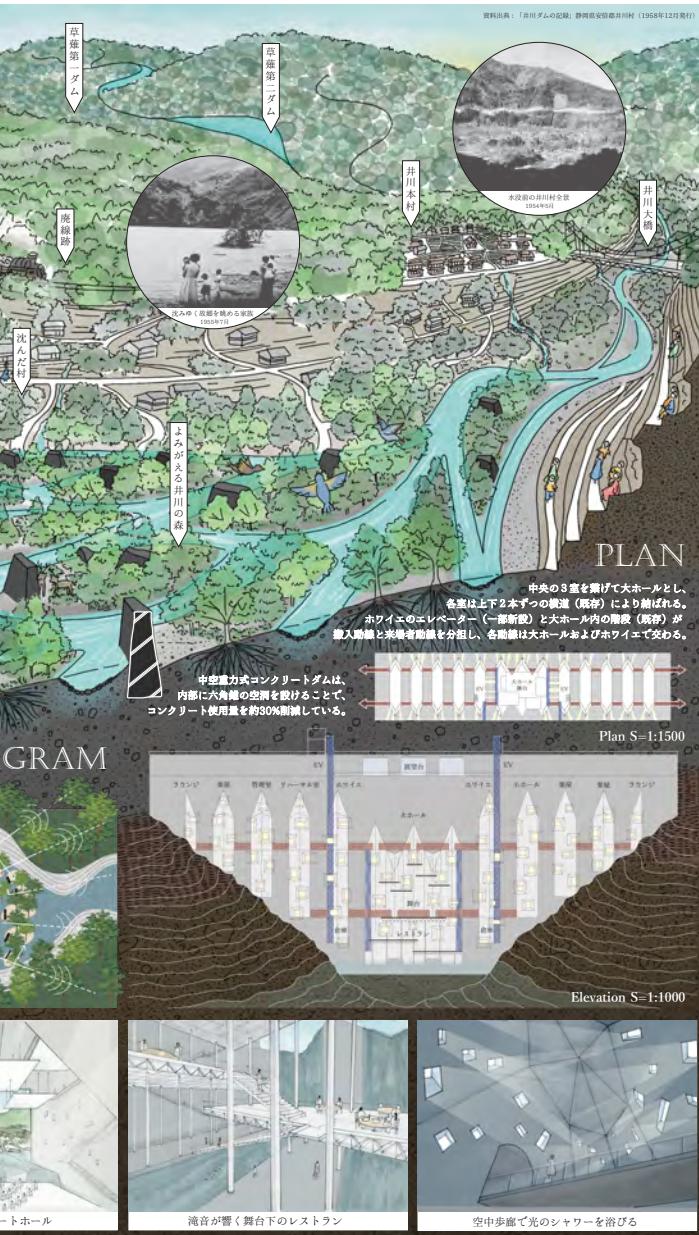


No.32

森は響き、湖底に祈る —ダム建設により沈んだ村を弔い、未来に繋ぐ屋外劇場—

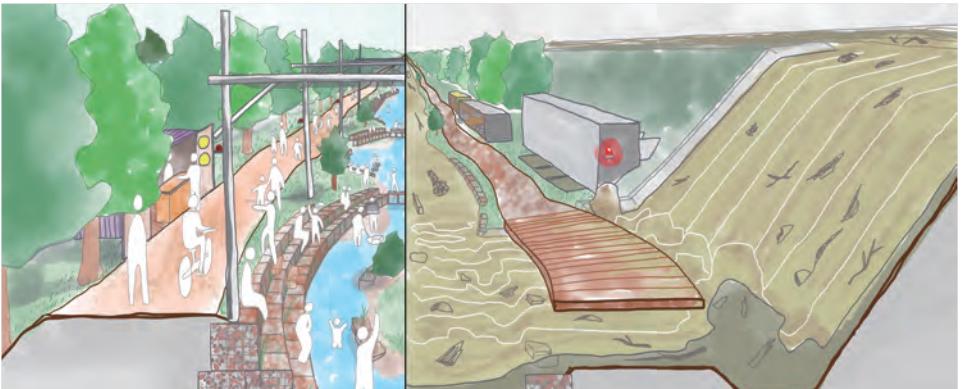
佐々木道啓（東京大学大学院），安達志織（東京藝術大学大学院），安藤莉央（東京大学）

中空重力式コンクリートダムの堤体に孔を開け、極めて美しい内部空間をランドスケープのような屋外劇場へと変換する。湖底に沈み時が止まった村や森の記憶を手掛かりに、自然に還していく物語の序章である。



來に繋ぐ屋外劇場—

へコンバージョンする。



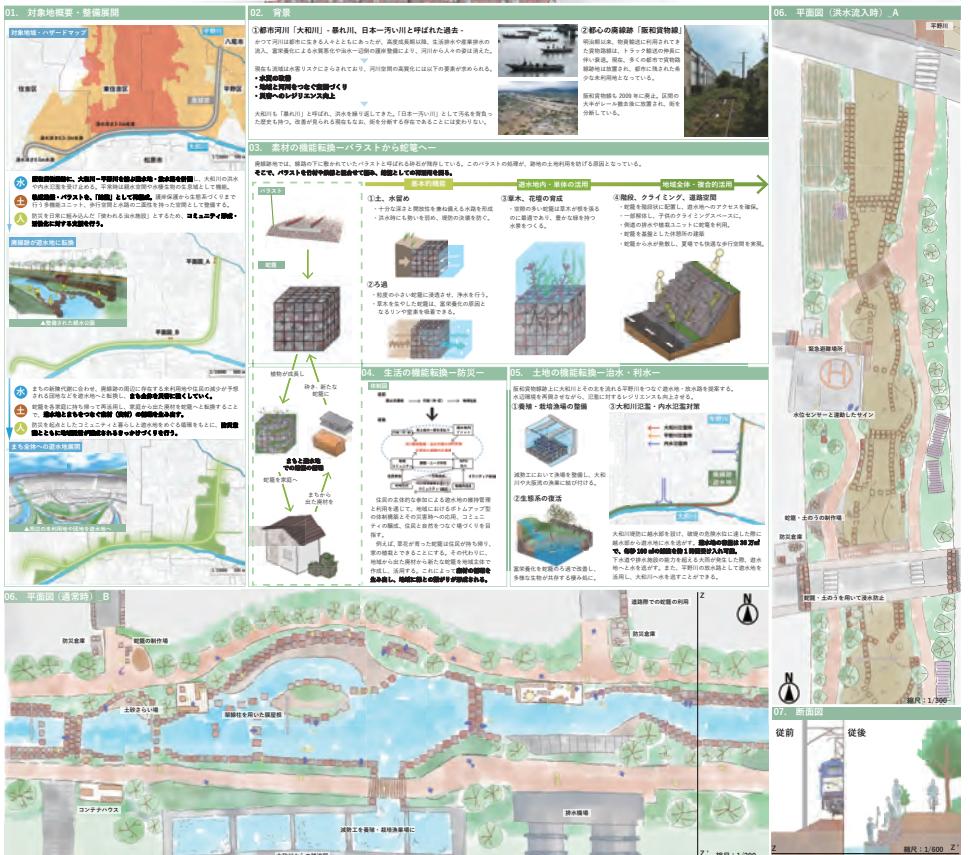
籠で水をすくう

- 蛇籠により、廃線跡を平時にも災害時にも活躍する遊水地へ -

かつて貨物線を支えた石を蛇籠に転用し、道と護岸を整備する。

再生した廃線は、平時には水を浄化し生態系を育む親水公園、

洪水時には水を受け止める遊水地という二つの機能を持つ。



大日本ダイヤコンサルタント賞

No.28 篠で水をすくう - 蛇籠により、廃線跡を平時にも災害時にも活躍する遊水池へ -

山本 裕, 指宿 滉明, 吉田 一樹, 鉢窪 優太(京都大学大学院), 山口 博生, 岡村 徳洋, 原田 彩花(京都大学) 21

たまり、のぼり、めぐる

Living Infrastructure Park System



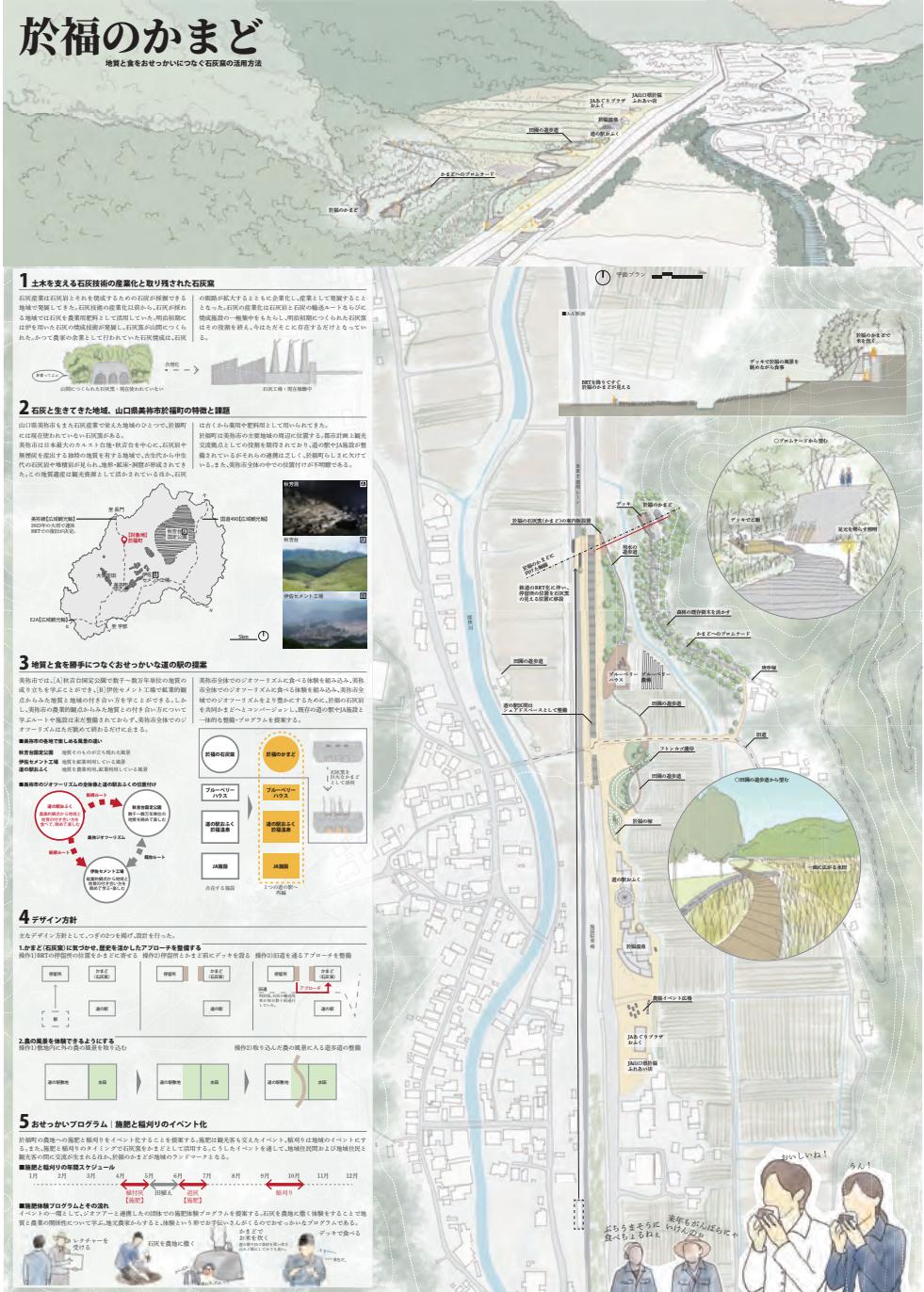
東京建設コンサルタント賞

No.22 たまり、のぼり、めぐる

オーガイアミシェル琳，中尾翔，谷川陸（京都大学大学院），明石夏林，鈴木雄太（立命館大学大学院）

於福のかまど

地質と食をおせっかいにつなぐ石灰廃の活用方法



ドーコン賞

No.20 於福のかまど～地質と食をおせっかいにつなぐ石灰窯の活用方法～

新井奏音（法政大学大学院）

応募作品一覧

No.	作品名	代表者名	代表者所属
1	道が息づくとき 一人と自然が育ちあう都市のしくみー	近藤 芽衣	愛知工業大学
2	YOKOHAMA 1500	小野寺 陸人	東京大学大学院
6	昇開橋 サクラ・テラス	小野 彰太	福岡大学
8	悠縁を結ぶ回廊 ~開かれた出会いの庭と自然をほどく径~	林 光太郎	熊本大学大学院
10	キオクノカケラ -野蒜築港に還る風景-	加茂 賢登	東北工業大学大学院
11	相違のしるし -Walk inside River-	富田 玲樹	東京大学大学院
12	ぬけがらに、ひかりを。	白井 愛莉	東北工業大学大学院
13	そよぎを織る	阿部 晴登	東北工業大学大学院
14	水郷の生活景を編む ~1030m がつなぐ過去と未来の物語~	安藤 大翔	近畿大学大学院
15	土木は森である。	茅沼 耕平	東京大学大学院
16	おとだまり	戸川 由聖	法政大学大学院
17	心の壁を解かす	渡 由貴	東京大学大学院
18	ルーツ ~明治の橋から坪井川、そして新町・古町へ~	藤原 昌栄	熊本大学
19	灯る堤 -ハレへと転換する防潮堤-	河田 夏奈	名古屋市立大学
20	於福のかまど ~地質と食をおせっかいにつなぐ石灰窯の活用方法~	新井 奏音	法政大学大学院
21	転換するくさび	中川 友風弥	立命館大学大学院
22	たまり、のぼり、めぐる	オーガイア ミシェル琳	京都大学大学院
23	はし わたし ともり なおし	高橋 杜真	東北工業大学大学院
24	埋立地の転換点 ～ブリッジストラクチャーが開く再編の骨格～	小泉 満里奈	早稲田大学大学院
25	Re:Bridge とおる→とどまる	岡崎 佑士	愛媛大学大学院
26	島原鉄道継景線	山根 春佳	熊本大学大学院
27	時の架け橋テラス -豊洲運河リフレクション-	百瀬 遥香	芝浦工業大学
28	籠で水をすくう -蛇籠により、廃線跡を平時にも災害時にも活躍する遊水池へ-	山本 裕	京都大学大学院
29	川と暮らす	小野 真	東京農業大学(卒)
30	ネイバーフットダム -機能と運用の転換によるダムと里の新しい付き合い方-	中野 太雄	早稲田大学大学院
31	水故知新	神林 史尋	千葉大学
32	森は響き、湖底に祈る -ダム建設により沈んだ村を弔い、未来に繋ぐ屋外劇場-	佐々木 道啓	東京大学大学院

100年をつくる会社
in 鹿島
東北支店



水と生きもの、ひとを結ぶ川づくり。

矢田川の全断面魚道 - 2017年施工 -



矢田川の改修を目指したのは、ただの治水ではなく、川が持つ力を活かした再生。

瀬と淵が蘇り、多様な水辺環境が息づきはじめています。

そんな川の姿を、これからも大切に守り続けたい。

私たちは、人と自然が再びつながる川を、地域とともに育てていきます。

 大日本ダイヤコンサルタント株式会社
Dia Nippon Engineering Consultants Co., Ltd.



次代への構想 Design for Next Age



令和3年度かわまち大賞
土木学会デザイン賞 2024 奨励賞
閑上地区かわまちづくり



閑東京建設コンサルタント
TOKEN C. E. E. Consultants Co.,Ltd.



晴海通のシンボルロード

株式会社ドーコン
<http://www.docon.jp>

本 社: 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1

東北支店: 仙台市青葉区一番町4丁目1-25 東二番丁スクエア

TEL. 011-801-1500

FAX. 011-801-1600

TEL. 022-225-2860

FAX. 022-264-9331



内蔵式横断防止柵 -YF-GLB-OBO-

NEW 内蔵式横断防止柵

YF-GL SERIES

ヨシモトポール株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1（丸の内パークビルディング19F）

TEL 03-3214-1552 www.ypole.co.jp



www.ypole.co.jp

YSポール株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1（丸の内パークビルディング19F）

TEL 03-3214-1510 www.yspole.co.jp



www.yspole.co.jp

「景観開花。」は、本年の開催で21回目を迎えました。
ご支援、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

景観開花。2025

公開最終審査会 & トークセッション

主催

東北大学工学部 建築・社会環境工学科 景観研究室
景観開花。実行委員会

景観開花。実行委員会

実行委員長	平野勝也（東北大学 准教授）
事務局長	小田切音桜（東北大学大学院）
事務局	
総務	小田切音桜（東北大学大学院）
協賛	伊丹裕亮（東北大学大学院）
涉外	伊藤駿汰（東北大学）
	菅野 桜（東北大学）
Web	平井宏樹（東北大学）
広報 / SNS	野口理生（東北大学大学院）
サポート	模田悠太 成田啓悟
	三谷勇太 志方花菜
	柏田 慧（東北大学大学院）

特別協賛（五十音順）

鹿島建設株式会社
大日本ダイヤコンサルタント株式会社
株式会社東京建設コンサルタント
株式会社ドーコン
ヨシモトポール株式会社／YS ポール株式会社
株式会社エイト日本技術開発
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
株式会社 JR 東日本建築設計
パシフィックコンサルタンツ株式会社
株式会社福山コンサルタント
株式会社復建エンジニアリング
株式会社復建技術コンサルタント

デザイン / パンフレット

小田切音桜（東北大学大学院）